



滝野東小学校だより

令和2年5月11日 文責 神田

心により添う言葉 ～語尾に「の」を添えて会話を～

コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業から早2ヶ月が経ちました。この間、登校日はあったものの、子ども同士、教師と子どもがふれあえたのは、わずかな時間でした。ご家庭でのお子様の様子はいかがでしょうか。お子様は、運動不足はもちろんのこと、友だちと遊ぶことの出来ないストレスを抱えておられることでしょう。その一方で、保護者の皆様は、家庭で過ごす時間が長くなっている分、お子様と会話する時間は増えていることでしょう。お子様にとって、お家の方との会話がストレスの軽減を図る上で大きな役割を果たします。しかしながら、テレビやゲームなどの時間の増加、兄弟げんか、なかなか進まない家庭学習等による保護者の皆様のストレスもあり、お子様への声かけも注文や注意が増えているかもしれません。



そんな中で、家族間の関係を和やかにする言葉があります。それは、「の」の字を会話の語尾につけるというものです。これは、カウンセリングの手法の一つです。例えば、子どもが、「ああ、今日もひまだった」と言ったときに、知らん顔してその言葉を聞き流したり、「ひまだったら、学習すればいいのに」と注意したりしたところで、和やかな会話にはなりません。そのときに、「ああそう、ひまだったの」と、子どもの気持ちをそのまま受け入れてあげることが大切です。まずは、おうむ返しに言葉をそのまま繰り返して、子どもに共感することが子どもへの優しさとなります。注意するとそれ以上会話は続きませんが、共感するとその後も会話が続きます。きっと、子どもはひまだったのかをくわしく話してくれることでしょう。語尾に「の」をつけて、相手の言葉をしっかりと受け止めることで、家族間の会話も弾みます。だれもが辛い日々を送っているこんなときだからこそ、子どもの心により添う言葉を大切にしたいものです。

新型コロナウイルスについてお子様と話しましょう

本校では、教職員が毎日、感染症拡大予防の観点から校区内をパトロールしています。新型コロナウイルスへの感染はお年寄りが多いせいか、小学生にはその危険性が正しく認知されていないような気がします。パトロールをしていると、マスクをつけずに大勢の子どもが公園で遊んでいたりと、友だちの家へ頻繁に遊びに行ったりと、その危険性を感じていない子どもと出会うことがあります。今やコロナウイルスは、小学生であっても感染報告が多数あがっています。ひと度感染すれば、子どもであっても重症化します。今一度、お子様には、「三密を避ける」「外出を控える」等、コロナウイルスへの正しい備えについて話してあげてください。子どもにとって、保護者の皆様とコロナウイルスについての会話を普通にできることはとても大切なことです。なぜなら保護者の皆様の声は子どもにとって最高の情報源であり安心の源だからです。よろしくお願いします。

《子どもが落ち着いて安心できるようにしてください》NASP（学校心理士学会資料参照より）

- ☐ コロナウイルスや現在の予防の試み、関連する出来事について、落ち着いて話したり行動したりすることで、子どもの不安を低下させます。
- ☐ 保護者、医療従事者、学校等大人は、みんなの安全と健康を守るためにいることを伝えてください。
- ☐ 子どもが不安を訴えたとき、その感情を表現させるとともに、適切に言い直して前向きな見方を与えてください。
- ☐ 子どもはいつも以上に甘えたり、自分の心配や恐れ、疑問を伝えたいと思っているかもしれません。そう感じたときは、そばにいてあげてください。